

平成27年度第3回秦野市廃棄物対策審議会概要

- 1 日時 平成27年12月18日（金）午後6時～午後7時30分
- 2 場所 秦野市役所本庁舎3階講堂
- 3 出席者 12名（欠席者2名）

東海大学教養学部人間環境学科特任教授	原田 一郎 氏
東海大学教養学部人間環境学科准教授	小栗 和也 氏
多摩大学グローバルスタディーズ学部教授	橋詰 博樹 氏
東京地方税理士平塚支部	草山 美博 氏
秦野市商店会連合会	中島 正彦 氏
神奈川県宅地建物取引業協会 湘南中支部秦野地区	郡司 文夫 氏
秦野市自治会連合会	前田 弘和 氏
秦野市農業協同組合	小泉 裕子 氏
秦野市食生活改善推進団体	古谷 典子 氏
公募市民	小林 裕子 氏
公募市民	大塚 満津子氏
公募市民	松岡 守 氏

4 会議概要

(1) 栗原一般廃棄物最終処分場埋立終了後の残渣処分について

ア 委員からの意見1（資料1）

栗原処分場が平成5年度から35年度までの30年間埋め立てるとのことで、資料の説明に、処分場の残りの容量があと3割になり、その状況をみて、毎年埋め立てしているとのことですが、当初予定していた処分量どおり行っているということですか。

イ 意見1に対する事務局からの回答

当初から栗原処分場は平成35年度までということで埋め立てを行っています。基本的には、埋立容量が残っているから延長するというのは難しいです。

ウ 委員からの意見2（資料1）

容量を増やすということもできないですか。

エ 意見2に対する事務局からの回答

埋め立てできる容量は決まっています。

オ 委員からの意見 3 (資料 1)

焼却灰は、資源化するのと埋め立てるのでは、埋め立ての方がコストは安いのですか。

カ 意見 3 に対する事務局からの回答

コストは、埋め立ての方が安いです。

キ 委員からの意見 4 (資料 1)

資源化について、民間でやるということは採算がとれるからだと思うが、行政がやることはないのですか。

ク 意見 4 に対する事務局からの回答

資源化するための施設をつくるのに費用がかかり、民間の力を借りて資源化した方が、コスト的にも安いと、資源化の施設をつくることは考えていません。

ケ 委員からの意見 5 (資料 1)

焼却灰を全量資源化するところも増えているが、民間で資源化する場合、その処理能力のことも考える必要があると思います。

コ 委員からの意見 6 (資料 1)

焼却灰の資源化が増えてくれば、処理能力により、単価が高くなることも考えられます。

サ 委員からの意見 7 (資料 1)

県内各市の状況で、自治体で処分場を持っていない、他市に処分を委託している自治体がありますが、こういった自治体は有料化することで、そういった費用に充てているのですか。

シ 意見 7 に対する事務局からの回答

前回の資料で、有料化を実施している自治体は、大和市・藤沢市・鎌倉市・逗子市・二宮町の 5 自治体でした。藤沢市では、処分場の残余年数が 28 年あるため、有料化の収入を他市に処分を委託する費用に充てることはないと思われませんが、大和市では、処分場の残余年数が 1 年であり、今後、焼却残渣を資源化していく場合は、有料化の収入を充てていくことはあると思われま。

ス 委員からの意見 8 (資料 1)

前は、栃窪の処分場、現在は、栗原処分場ということで、今度処分場の場所を探す場合、秦野で探すということになるのですか。

セ 意見 8 に対する事務局からの回答

現在、秦野市と伊勢原市及び秦野市伊勢原市環境衛生組合の3者で、平成35年度以降の残渣の処分について、全量資源化するのか、最終処分場を設けるのかの検討を行う予定です。

ソ 委員からの意見9（資料1）

長期的に考えると、環境保護からも再資源化の方向に進めていくことになるのではないのでしょうか。

タ 委員からの意見10（資料1）

問題は全量を資源化できるのかということだと思います。

チ 委員からの意見11（資料1）

現在、全量を資源化していないということですが、どういった理由によるものですか。

ツ 意見11に対する事務局からの回答

1つとしては、コスト面の問題があります。また、飛灰に関しては、資源化する民間事業者が限られているため、全量を資源化するために受け入れ可能かという問題があります。

(2) 個別事業に対する意見について

ア 委員からの意見12（資料2）

「マイバッグ運動等ごみの排出抑制の取組」について、店側から提供されている段ボールを、レジ袋の代わりに使っても、家庭で適正に資源として出していれば、資源循環は守られるということですが、事業系の一般廃棄物として、事業者が処分するには、事業者が費用を負担します。家庭から出たら、市の負担で処分をすることになると思います。

イ 意見12に対する事務局からの回答

コスト面では、市の負担で処分をすることになりますが、段ボールは売払いをしているため、収入にもなっています。

ウ 委員からの意見13（資料2）

レジ袋の代わりに段ボールで商品を持ち帰ることについて、段ボールは何度も再資源化できるため、環境面からは、レジ袋をもらうよりも段ボールを使用した方が良いとされています。それに加えて、マイバッグ運動というのが始まりました。

エ 委員からの意見14（資料2）

災害廃棄物対策について、大規模災害のことを考えるとき、最終処分

場の問題は大きな問題です。災害が起きた場合、廃棄物の置いておく場所が必要となります。他市では、最終処分場を持たずに、焼却残渣を全量資源化しているところもありますが、災害時には非常に危険です。藤沢市は、処分方法を熔融固化に変更したことにより、現在の最終処分場を延命しています。

最終処分場の問題は、非常対応の点も含めて、廃棄物の安定的な処分といった観点からも議論が必要であると考えます。

オ 委員からの意見 15（資料 2）

重要な御指摘だと思います。その地域で出たごみは、責任を持ってその地域でなるべく処分する。そのときに、最終処分場の問題というのは、いくら資源化をして埋立量を減らすと言っても、必要性はあります。最終処分場を新たに設けることは、なかなか理解が得られないことだと思いますが、方向性は間違っていないと思います。

カ 委員からの意見 16（資料 2）

ごみを減らすために有料化をすることは、1つの方法であると思いますが、有料化したことによつてのメリットが見えないと市民は納得できないと思います。例えば、有料化したことによつて、収集車の台数が増え、収集がスピーディーになり、早く対応してくれるようになるといった「メリットの見える化」ということを計画に盛り込んでいただきたい。

キ 委員からの意見 17（資料 2）

伊勢原の清掃工場（90 t／日焼却施設）は耐用年数がきているというのですが、新しく建てることはないのですか。

ク 意見 17 に対する事務局からの回答

現在どのようなメンテナンスをすると、どの程度使用が可能か調査をしている状況です。

ケ 委員からの意見 18（資料 2）

180 t／日焼却施設の跡地はどうするのですか。

コ 意見 18 に対する事務局からの回答

180 t／日焼却施設の跡地については、粗大ごみのリサイクル施設をつくる予定です。

サ 委員からの意見 19（資料 2）

最終処分場の問題も、新たに最終処分場をつくらないということを前提として考えるのは難しいのではないかと思います。有料化の問題、最

終処分場の問題、さらなるごみの減量、そのための情報発信も全てやっていかななくてはいけない状況にあります。その方向性を検討するのが、この審議会の本来の目的であると思いますので、今後とも御協力を賜りながらより良い方向に進めていきたいと思ひます。